

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	大竹駅周辺地区における鉄道駅へのアクセス向上と交通結節点の機能強化による安全で快適なまちづくり												
計画の期間	平成31年度 ~ 令和05年度 (5年間)								重点配分対象の該当	○			
交付対象	大竹市												
計画の目標	<p>当市の玄関口であるJR大竹駅の東西地区を自由通路で連絡することにより、駅東側地区利用者の徒歩での駅アクセスの向上を図ると共に、駅西側地区利用者の駅周辺の回遊性を高める。</p> <p>東口広場を整備することにより、駅東側地区利用者の自動車での駅アクセスの向上と大竹駅周辺を交通拠点・交通結節点としての機能強化を図る。</p> <p>西口広場を改良することにより、現在問題となっている広場への通過交通を排除し、駅周辺の円滑なアクセスと交通処理の向上を図ると共に、不足している交流スペースを整備することにより、安全で快適な交通空間の形成を図る。</p>												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	4,720	A	4,720	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		平成31年度当初	令和3年度	令和5年度末
1	<p>駅東側地区歩行者の改札口へのアクセス時間を短縮する。</p> <p>駅東口(国道2号)からの歩行者のアクセス時間</p> <p>H31年度当初: 9分 R5年度末: 1分</p>	9分	9分	1分
2	<p>駅広場への車でのアクセス時間の短縮を目指す</p> <p>駅東口(国道2号)からの自動車のアクセス時間</p> <p>H31年度当初: 4分 R5年度末: 1分</p>	4分	4分	1分
3	<p>西口広場への通過交通を排除する。</p> <p>西口広場の通過交通の排除率</p> <p>H31年度当初: 0% R5年度末: 100%</p>	0%	0%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H31	R02	R03	R04	R05			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	大竹市	直接	大竹市	市町村道	改築	駅小島新開線	交通広場整備 A=3,870m2	大竹市						300		-
	A01-002	街路	一般	大竹市	直接	大竹市	市町村道	改築	新町西栄線	自由通路整備 L=0.13km	大竹市						4,090		-
	A01-003	街路	一般	大竹市	直接	大竹市	市町村道	改築	駅前油見線	駅前広場整備 A=4,300m2	大竹市						330		-
											小計						4,720		
											合計						4,720		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 大竹市 建設部 都市計画課	事後評価の実施時期 令和7年9月
	公表の方法 大竹市ホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	JR山陽本線で分断されたJR大竹駅の東西地区を自由通路で連結することで、駅アクセスの向上を図るとともに、駅周辺の回遊性を高めた。また、駅東西広場を整備・改良することで、東側の駅アクセスの向上と大竹駅周辺を交通拠点・交通結節点としての機能強化を図ったとともに、西側の課題である広場への通過交通を排除し、円滑なアクセスと交通処理の向上を図るとともに、安全で快適な交通空間の形成を図った。 本整備計画の事業実施により、定量的指標の目標値を達成した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
大竹駅周辺整備事業については、社会資本総合整備計画「大竹駅周辺地区における安全・安心な歩行空間の創出（防災・安全）」へ移行して引き続き事業を実施しており、高齢者や障がい者など歩行者に配慮したユニバーサルデザイン化を行うことで、避難路の確保や安全・安心な歩行空間の創出を図ることとしている。	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	1分
	最終実績値	1分
2	最終目標値	1分
	最終実績値	1分
3	最終目標値	100%
	最終実績値	100%